

### イエス様の方法(マルコ 3:13-19)

何週間に渡ってイエス様に対して人々がどのような反応を示していたのかについて調べてみました。いのちとは全く関係ないものなのに、既存の今までの価値基準を持ってイエス様のおっしゃる言葉が全く間違いだと訴える人々がいました。また、今日の聖書の箇所の方に、来週その部分について教えられると思いますが、イエス様が悪霊に取りつかれているものから悪霊を追い出していやされる奇跡を現しました。それはイエスがキリストだというしるしなのです。なのに、それを見ていた人々が、より強い悪霊の力を借りてやっていることだ。だからイエス様も悪霊に取りつかれている者だとまで言う人がいました。また、その噂を聞いて真に受けて、イエス様を止めようとしている親族の人々がいたわけです。イエス様に対してそのような反対をする反応ばかりでした。中にはイエス様の奇跡、いやしを見てイエス様に従う人たちもいました。先週確認しましたように、大勢の人がイエス様に従っていたにもかかわらず、肉の動機に囚われて、ごりやくばかりを求める人だけでした。今日の聖書を見ますと、そういう中でイエス様は弟子たちを召されたと記されています。神様はご自分が救いに定められたたましいは必ず救われます。神様はそういうお方です。そして、救いに定められたたましいを救われる神様の方法が何かと言いますと、それが弟子なのです。別の言葉では教会とも言えるでしょう。もちろん神様はご自分の主権を持って、また、人には止められない神様の力によって人々を救い出すこととなります。弟子がいなくても神様は救われることができないわけではありません。しかし、私たちの頭では全部理解できなくても、神様はそのような力を持っていらっしゃる方なのに、弟子を呼んで反対ばかりしていて、ごりやくばかり求めている人々を救い出そうとしていらっしゃる。神様はご自分が救いに定められたたましいは必ず救われますけれども、その方法が弟子であるということ覚えましょう。弟子という言葉は非常に大切なものになるでしょう。弟子は一体どんな人でしょうか。また、イエス様の弟子たちをどのようにしてこの暗やみの世を助けて救おうとしていらっしゃるのでしょうか。これらのことを考えていきたいと思えます。

#### 1. 第一に、イエス様はご自身のお望みになる人々を弟子として召されます。

それが今日の聖書にも紹介されています。もう一度言います。イエス様はご自身のお望みになる人々を弟子として召されて用いられます。つまり、弟子になった、弟子として召されたということは、人間的な条件などは一切関係ありません。学歴があるかないか、性格が穏やかな人なのか、あるいはタフな人なのか、貧乏なのか金持ちなのかなどは一切イエス様の弟子になることとは関係ないということです。弟子は神様が選ばれた人が弟子になります。神様に選ばれたということは、神様ご自身の意志で、神の恵みによって弟子として召されるということを意味します。それが弟子という存在です。そして、誰が選ばれるのか、その人が弟子として選ばれたその根拠、証拠は一体何なのかは、人間的な条件では見分けることができません。場合によっては、刑務所にいる人間が選ばれる場合もあるし、ものすごく知識のある人間が選ばれるときもあります。でも最初は大体、この社会から疎外されて、指差される人々が弟子として選ばれる傾向があります。まるで私たちの教会のように。まるで私のように。神様の恵み、神様のお選びなのです。

では、弟子だということはどのようにして分かるのでしょうか。その人が神様に選ばれた証拠が何かというと、正しい信仰告白をするようになります。あの人は人間的な基準から見たときには無視されるような人間なのに、その人がイエスはキリストと告白します。ならばその人は弟子なのです。イエス様をキリストと正しく知り告白することが、その人が神様に選ばれた弟子だという一番の証拠であり裏付けでもあります。それを心にしっかり留めましょう。だから弟子という人間は、イエス様は神様から離れてさまよい続けていた私を神様に会わせてくださった方だと信じます。イエス様は私が罪によって地獄に行くしかない運命に捕らわれていたのに、そのような私を地獄の運命、罪から永遠に解放してくださったと信じます。弟子は必ずそのように告白します。自分がどんなに惨めな人間でも、また家庭環境がどれほど惨めであっても、弟子になった人はイエス様のことをそのように告白します。イエス様は自分も知らないうちに生まれながら悪魔の奴隷だった私を、その悪魔の手から引き上げて助けてくださった方だ、救い出してくださいましたのだと告白します。弟子はイエス様をキリスト

と心から告白するようになります。他は人と比べて劣るところがたくさんあるかもしれませんが、でも、そんなの関係ない。イエス様をキリストと告白する人であれば、その人は神様に選ばれたイエス様の弟子なのです。それでイエス様をキリストと告白した結果、その人も知らないでいたのですが、どのように変わるのかと言いますと、ガラテヤ2：20、私は十字架とともに死んで、今私のうちにキリストが生きています。キリストがその人の内側で生きるようになります。イエスがキリストだと告白しただけなのに、イエス様をキリストとして受け入れただけなのに、キリストがその人の内側に住まわれるようになります。その結果、自分では何も変わっていないかのように思うかもしれませんが。周りの環境も変わっていないかもしれません。けれども、実は私たちは死と罪の原理に捕らわれて滅びるしかない、そういうかわいそうな者でした。けれども、死と罪の原理から完全に解放されて、すべての問題が終わってしまいます。それを弟子と言います。どのようにイエス様がキリストがその人の内側に住まわれるようになるのか。Iコリント3：16、あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることを分かっていないのか。レムナントの皆さん、目に見えることしか信じない世の中の流れに従って今まで歩いて来たでしょう。だから目に見えないことは信じないし、あまり興味ないかもしれませんが、そうすると必ず負けてしまいます。一番大切なものは肉体的なことでも目に見えません。精神も心も見えないでしょう。イエス様が、キリストが、すべての問題の解決者キリストが、どのように私の内側に住まわれるかと言いますと、聖霊を通してです。これが三位一体の神様の奥義なのです。目に見えないからイエス様がキリストが神様が私とともにおられるという感覚がない場合がありますが、そうすると教会に通っている信者だとしても負けます。永遠に負けることはありませんが騙されます。見えるものばかりに左右されて人生フラフラ倒れるようになるしかありません。イエスがキリストだと告白して受け入れた弟子、イエス様の教会は、キリストが聖霊を通して内側にもともにおられることとなります。つまり、自分の内側に真の神様がともにおられるようになり、しかも永遠にもともにおられるようになる、そういう結果になります。だから自分では気づいていないでしょうけれども、古いものは過ぎ去り、すべてが新しく作り変えられるようになります。これがイエスがキリストだと告白していた弟子に与えられる結果なのです。まずイエス様は、お望みになる人々を弟子として召されてこのようにされます。これに気づいてもらうためにみことばをもって教えられます。あなたは今まで気づいていなかったでしょうけれども、私のことをキリスト、救い主と信じて受け入れたでしょう。ある人は悪霊に取りつかれ、ある人は間違いだと訴えて、ある人々は憎むことばかり求めている中で、あなたはイエス様をキリストと告白したでしょう。あなたが変わったんだよ。あなたの内側にわたしが住んでいるよ。三位一体の神様があなたの主であり、あなたの内側に住まわれるようになったんだよ。だから、あなたは以前のあなたではありませんと、まずみことばを通して教えられます。これが弟子の第一歩です。弟子を方法にして弟子を用いて他の人を救い、世界を救われる神の計画を全うしていらっしゃいます。その弟子が用いられるための第一歩が「ああ、変わったんだね。私は弟子だね。イエスがキリストだと告白しているから私は弟子であり、内側から変わっているのだね。神が一緒だね」と気づくことです。自分の存在がキリスト以前の存在ではなく変わったということにまず気づいてもらうこと、そこからイエス様は弟子を通して、この暗やみの世界を変えるために何をされるのかと言いますと、

2. 二番目です。彼らを身近に置きとおっしゃいました。肉体を持っていらっしゃるので、当時は身近に置く、つまりイエス様は弟子たちにもともにおられることを味わうようにして勝利を与えられます。

これがイエス様が弟子たちを用いられる方法です。いきなりこうしなさい、ああしなさいとおっしゃらずに、イエス様はまず身近に置く。今はイエス様が肉体ではなくて聖霊を通して内側に一緒にいらっしゃるので、イエス様は内側にもともにおられる神様、三位一体の神様が弟子ともともにおられるから、そのともにを味わわせます。ともにを味わわせます。ともにを味わわせます。そうすると勝利はついてきます。これが弟子たちの祝福であり、イエス様が弟子たちを扱う方法です。ともにおられることは味わっても味わわなくても変わりません。ただ、味わわないとその効果がなかなか見られません。味わうということは、あるから味わうことです。ないものをあるかのように思い味わう、そういう神学もないわけではありません。それは全部偽りです。弟子の内側には、見えないけれども見えるものより、より確実にともにおられます。イエスをキリストと告白しているものは、刑務所にいてもどこにいても三位一体の神様がともにおられます。それを味わわせます。味わうことが弟子の生き方になります。味わうとどうなるのでしょうか。なぜ味わわせるのでしょうか。ともにおられる神様、

それを神の国と言います。それを味わうと弟子の内側から変わるようになります。どのように変わるのかと言いますと、実際は存在そのものが変わっています。しかし、いまだに考え、心、思い、脳細胞、刻印などなどが昔のものまなものです。そこが変わるようになります。それが弟子として用いられるためのプロセスです。実際的に神様がキリストがともにおられることを味わうことによって、考えと心と脳と、そして結果的にたましいが変わるようになります。ふさわしい表現なのかどうかはよくわかりませんが、このように言えると思います。今までは考えと心と脳細胞、そして、たましいが別のもに染まっていたわけです。それを刻印、根、体質と言います。そこがともに味わうことで、主がともにおられることに染まっていくようになります。それを難しい言葉で御座化と言います。御座が私たちの内側に入ってきました。しかし、それが「化」、化けないといけません。考えの方に心の方に脳細胞の方に。その結果、たましいに刻印されるようになるということです。それでキリスト以前、御座がともにおられること以前に入っていた刻印、根、体質が放り出されていくようになります。それをいやしと言います。だから、イエス様は弟子たちを召されて一番先に何をされるかと言いますと、まずはお知らせします。それを啓示と言います。それが考えと心とたましいに刻印されるように、それも啓示なのです。目に見えない神様が肉体を持ってこの世に来られて見えてくるように啓示された。そのようにキリスト、みことばが聞いてここにあるだけでなく、牧師が話す言葉として空中を転々とするものではなく、皆さんの頭の中に入って覚えられているものではなくて、それが心と考え、たましいに刻まれていくようになる、啓示されるようになります。味わいます。どうやって味わうのか。信じていればよいのです。弟子は三位一体の神様が内側にとともにおられる者です。でも、私たちの思い、考え、感情、すべてが神様がともにおられることと全く関係ないものによって入り乱れているわけです。そこが味わうと取りはがされるようになるのです。味わってください。三位一体の神様が、キリストが私とともにおられることを。それが私の考えに心に具体的に実際的に啓示されるように、現われるようにと祈ってください。「ともに」、これをインマヌエルとも言います。これを味わうことで内側から変わるようになります。皆さんの内側から変わることで、「私は食べて行くために生きる者ではなくて、どここの誰々ではなくて、私は本当に光のやぐらなんだ」ということに気づくようになります。実際、そのように変えられます。今までは仕事のために、家族のために、生計を立てるために一生懸命仕事をして働いていたものが「あ、違うね。光を放つ者なんだ。仕事どころじゃなくて、唯一のいのちの光を私の内側に持っているの、それを放つために仕事があるのだね」。このようにイエス様は身近に置いて、その人を内側から変えられます。自分の内側が変わるといえるのは一生懸命修行するからできるものではありません。自分の力、意志ではできません。上からの主がともにおられることが実際的に内側に現れるようになるわけです。これが弟子の特権でもあります。そうすると、皆さんが礼拝を捧げるときに、皆さんの職場、家庭、勉強、すべてのところに25の答えが現れるようになります。時間空間を超越するというのは、そのときにやっと理解できるようになります。その時までにはただのことばなのです。味わうことです。何かをしなさいではなくて、まず味わうことです。死の影の谷を歩いているときにも、「お父さん、お母さん、おかしいな」「私はなかなか嫌な性格があって、嫌な習慣があって、なかなか断ち切れないな」。嫌で嫌でしようがなく、何回チャレンジしてもなかなかうまくいかない、そういう問題でも、それをこうしなさい、ああしなさいと言われる前に、「だからキリストがあなたのために十字架で死なれて、あなたの内側に一緒にいらっしゃるのだよ。味わいなさい」とおっしゃるのです。この順番が変わると、パリサイ人と一緒になります。全部もつともな話、正しい話なのですが人を殺してしまいます。教師の方々も親の方々も大人の方々も気をつけなければなりません。霊的なことを無視してはいけません。霊的なことが本当であれば順番が変わるでしょう。ともにおられるから。ともにおられることを味わってもらって、その効果が現れるまでそれしか方法がないので待つしかないでしょう。それで内側が変わると、その人の霊的な状態が絶対の状態に変わります。これがともに味わった結果なのです。どのような状態でしょうか。どんな過去があろうが、どういう問題があろうが、絶対安心です。絶対幸せ、絶対満足です。何一つ足りないものもないし問題もありませんと変わります。内側がそのように変わっていない限りは、現実には負けてしまうのです。なぜでしょうか。現実には現実だけではなくて、その裏にサタンが悪霊がそれを操って隙を狙っているのだから負けてしまいます。自分では精一杯悩んで考えたでしょうけれども。絶対幸せ、絶対満足、絶対安心、安全。大丈夫よ。死の影の谷を歩いても大丈夫よ。世界中の人に指差されても大丈夫よ。SNSで誹謗中傷などで自殺する人がいるけれども、SNSではなくて世界中のSNS全部に私の悪口が書かれていても大丈夫です。絶対だから。この力を持たないといけません。どこから来るのでしょうか。弟子にはそれが約束されて保証さ

れています。ともにいらっしゃるから、それを味わえばいいのです。その絶対の霊的な状態をもって、その日その日の現実に対応して行くようになります。どのようにでしょうか。現実をそのまま見るのではなくて、必ず神の計画が何なのか、神の計画があることを大前提にして、そちらの方にフォーカスをポイントを合わせるようになるので、どのような現実であろうが、それが嬉しいことであろうが、悲しいことであろうが、それに囚われることなく超越して行くようになり、空前絶後の神の力がそこに現れるようになり、すべてが証拠に変わるようになります。だから証人になるのです。もしかして皆さん、ものすごい宇宙の話をしているような感覚かもしれませんが、皆さんのものなのです。これだ、あれだ、正しい、正しくないと言句ばかり言って味わわないのです。味わうことが第一です。

弟子たちを召されて身近に置き、そうするとこうなります。イエス様が最後におっしゃいました。「それはあなたがたは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれると力を得て、地の果てにまで証人となるよ」と。あ、そうですかと祈りに専念しました。このことが定時化されます。定時、時間を決めて、これが繰り返されていくようになり、そして、もう少し進んで「あなたがたは知らなくていいよ。聖霊が臨まれると...→あ！祈りに専念する」が、日常化になります。すべての場面において。それがまた集中化になります。それに集中していきます。それで定時化、日常化、集中化になって、これがずっと進んでいきますと、その人の人生においてこの祈りがしっかり自分の者としてシステムになります。わざとこうしようと思わなくても自然になる、それをシステムと言います。祈りがシステムになります。朝起きたら祈りから始まります。それが苦ではなくて、何かの行いではなくて、それしか方法はないし、それで幸せだから。イエス様は弟子たちを呼んで世界を変えられます。ここにいるレムナントのひとりひとは、日本の国と世界を変えるために召されたものに間違いありません。どうすればいいのでしょうか。そのことをまずアーメンと頷いて、そのために内側にもなおられることに一番のポイントを置いてそれを味わうことです。それを味わうことができないようにする条件は存在しません。祈りを止められる条件は存在しません。どんなに酷い場合でも、皆さんがどんなに酷い失敗を犯した、どんなに酷い習慣を持っていても味わうことができます。味わうことができないのは、古い人間の習性とそれを利用する悪魔の邪魔であるだけであって味わうことができます。信仰だけなので。こうなるためにイエス様が十字架に死なれたわけです。

3. そうなると当たり前でしょうけれども、イエス様は弟子たちに福音を宣べさせられます。

どういうことなのかというと、このように味わって内側から変わりますと、やっと人を見る目が変わります。なぜあんなに不安なのだろうか。なぜ皆あんなに汗をかきながら争っているのだろうか。ああ神様を離れているからなんだね。なぜ性格が良いものが、真面目な人間が精神的にダメージを受けるのか。なるほど、良い性格は悪魔には敵わないから、悪魔のしわざに引っかかって悪魔に騙されているんだねということが見えてくるようになります。なぜ皆宗教にのめり込んで偶像崇拝をしてシャーマンなどに頼るのか。なぜ皆何かの欲に囚われ執着して走っているのか。なるほど、空中の権威を持つ支配者に従って世の流れに流されているんだね、ということが見えてくるようになるのです。人を批判したり誰かが良い悪いというレベルを超えて、なるほど縛られているからなんだね、騙されているからなんだね、答えがないからなんだね、ということが見えてきて、かわいそうに思い、そこから自由になった自分をもってその鍵となるキリストをおあかししていくようになります。これが弟子です。なぜそういう風にならないのでしょうか。そういう風に見えないからです。「お父さん、ひどいな」ではなくて、なるほどキリストを知らないから。縛られているから。だから私はここにいるんだね。だからキリストがともにおられる光を持っている私がここにいるんだね。それを祈るわけです。それをやぐらと言います。このようにしてイエス様は弟子たちを用いられて世界を変えられます。

4. そのためにイエス様はその弟子たちに負けないで勝利できるための権威をもたせます。

悪霊を追い出すための権威を。なぜでしょうか。エペソ 2 : 2 には、空中の権威を持つ支配者、目に見えないけれどもこの世界を支配している者がいて、エペソ 6 : 12 には、「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対す

るものです」。直接的、間接的にこの世界を社会を支配している者がいるので、それに打ち勝つことができる権威をもたせます。そして、その悪霊、悪魔というものは、伝道者、信者、弟子を攻撃したり邪魔するのです。騙してしまうのです。ヨハネ 8：44、悪魔サタンは最初から偽りのものであり、偽り父と言われています。Ⅱコリント 4：4「その場合、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないように」嘘をついているのです。信者にもⅡコリント 11：14「しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです」と。良さそうなことでも全部が嘘、だましごとなのです。このように悪魔、悪霊が信者の私たちに騙しているのです、それに騙されないで追い払って勝利できるように権威を与えていらっしやいます。直接的に間接的に騙しているものなので、それでこの権威をもたらすことによって、マルコ 16：17「信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し」。Ⅱコリント 5：20「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです」。キリストと同じことが現れる使節、キリストの代わりなのだ。Ⅰペテロ 2：9「あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司」と言われているのです。これはどういう意味なのでしょう。キリストと同じ権威が現われるということなのです。2部礼拝でももう少し具体的に申し上げますけれども、この権威があることを信じてこの権威を使わないといけません。このようにして弟子をこの世に光を照らす者、またいのちの水が流れ出て、それが当たる所々がすべて生かされたように生かす者として現場に派遣されるようになります。だから一見、人間的な目で見ると、何あれ？と思われる存在でしょうけれども、イエス様に選ばれて召された弟子は、ともにがあり、それを味わい、見る目が違うのです。それに人々は気づいていないでしょうけれども、悪霊に勝利できる権威を持っているわけです。だからこの弟子たちを通して世界福音化を成していらっしやいます。弟子はイエス様の方法です。

結論申し上げます。今日のメッセージを聞いて、レムナントを始め皆さん、ぜひ真剣に真面目に問いかけてみましょう。「なぜ自分はイエス様を信じているのか」。親に連れられて仕方がなく教会に通い始めたレムナントがほとんどでしょう。それを感謝しないといけません。まず、このイエス様のお話を聞く場に連れられてきたということは神様の導きなのです。しかし、いつまで経っても親が主体であって、私は連れられてきている者だという感覚ではダメなのです。独立しないといけません。2部でも申し上げますけれども、親が全く未信者で教会生活が難しいという人もそこから独立しないといけません。親の信仰を見習うということは良いことでしょう。けれども 100%親から見習うものではありません。皆さん、ひとりひとりが直接神の前に立って、イエスはキリストと告白する、そういう信者にならないといけません。いつまで経っても親の影、親というきっかけにとどまっていたはいけません。大人の方々も同じです。なぜ自分はイエス様を信じているのか。本当にキリストとして信じているのかということ点を点検し、もしかしてそうでなければイエスをキリストとして信じてください。そしてその信仰告白が間違いなければ、条件がどうであろうか気にしないで、自分は神様に選ばれた弟子なんだという確信と、だからこそ私こそがイエス様の救いの方法なんだという確信と自負を持ちましょう。私を通して死んでいる人々が生かされるんだ。私を通してキリストが現れるのだ。私を通していのちの泉が流れるのだと信じてください。そのように光を照らすために生かすために現場に行っているのに、現場の人間と競争して悪口を言ったり、潰したり、怒ったりということはしないでしょ。そういう意味なのです。道徳ではありません。自分の存在がそういう生き方と関わるような存在ではありません。光としてのいのちとして現場に遣わされているので、すべてを譲り、すべてを許しの方に進んでいくようになります。それを我慢してではなくて、もちろん我慢のレベルもあるでしょうけれども自負をもって。自分を通してこの現場の暗やみが砕かれて、現場の死の力が砕かれて、いのちのわざがここに現れるのだ。自分を通して。なぜなら自分は弟子だから。なぜ弟子だとわかるのか。イエスはキリスト。今まであまり気づいていなかったでしょうけれども、その祝福の根源である神がともにおられるいのちの所有者なのです。なのでこれを祈りの課題にしましょう。私はそういう意味で現場に教会として行きます。現場に教会として、結果、現場が教会に。一緒について行っていただけますか。一緒に言いましょ。「現場に教会として。現場が教会に」。これが「現場の灯台を意識し味わい…」と同じ話なのです。これを課題にして 393 が、つまり三位一体の神様の働きが、御座の祝福が自分の内側に現れて、生かす存在としての未来が開かれるように祈りましょ。目に見えないからイメージをしながら、自分の内側に 393 が働くことを祈りましょ。「ともに」の祝福を祈る、それで勝利するそのようなクリスチャン、弟子になりましょ。

(祈り)

恵み深い父なる神様。イエス様は救いに定められたたましいを必ず救われるお方であり、その方法として私、弟子を用いられる不思議な神様のやり方を教えられました。ありがとうございます。ひとりひとりが信仰告白を吟味して、自分が弟子である確信を持って、自負を持って「現場に教会として、現場が教会に」この課題を祈ることができるようにひとりひとりをかえりみてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン